

## 業績リスト(過去3年)

* (1. 著書	2. 論文)	3. 訳書	4. 研究ノート	5. 書評
6. 調査報告書	7. その他文筆活動	8. 作品発表	9. 学会発表	10. 講義・講演
11. テレビ・ラジオ等出演	12. 公的活動	13. 研究助成採択	14. その他	

\* (1. 著書 2. 論文)は別途掲載

**清水 凌平** (しみず りょうへい) [子ども教育学科 助教]

### 2023年

#### 9. 学会発表

- 清水凌平, 村上忠幸. 自由度の高い協働的な探究活動における協働性・多様性の表出についての調査. 日本理科教育学会第73回全国大会 (高知大会). 高知大学. 2023年9月

#### 10. 講義・講演

- 清水凌平. 「身近なもので理科探究～混ざらない?不思議な色水～」. みんなで!サイエンスみらい!!小学生のための「せい・か・ぶっ・ち」(NPO法人架け橋mirai主催). 文化パーク城陽

#### 14. その他

- 亀岡サイエンスフェスタ2023 出展. 亀岡市・亀岡市教育委員会 主催. ガレリア亀岡. 2023年11月23日.

### 2022年

#### 9. 学会発表

- 清水凌平, 村上忠幸. 個別最適な学びと協働的な学びの一体化を実現する探究学習およびグルーピングに関する研究. 2022年度日本理科教育学会近畿支部大会. 大阪教育大学 (オンライン). 2022年11月

#### 10. 講義・講演

- 清水凌平. 新しい時代における教師力の姿. 愛知県立一宮高等学校 第1回SSH課題研究教員研修会. 愛知県立一宮高等学校. 2022年6月

#### 13. 研究助成採択

研究代表者	研究助成者	研究題目	研究年度	助成金額 (万円)	分担者 (含他所属)
清水 凌平	日本学術振興会	「令和の日本型学校教育」における資質・能力およびそれを育む探究学習に関する研究	令和4年度	143	
			令和5年度	143	
概 要 (薫英研究費・無)					
中央教育審議会は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を示している。これにあたって、学習者の個性や能力、強みに焦点化することが肝要である。しかしながら、子供の個性・能力などをめぐっては、①個性などの把握が教師の主観的・経験的な視点から行われている現状、②協働学習において小集団を組む際に、個性などの多様性を担保する難しさ、③学習者の個性などが包括的に発揮される実践例が僅少であること、などの問題が挙げられる。本研究ではMI理論に基づく可視化、グルーピング手法や自由度の高い協働的な探究プロセスを用いることで「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化実現に向けた理論・実践基盤の形成を目指す。					

### 2021年

#### 9. 学会発表

- 清水凌平, 村上忠幸. 協働的な学びにおけるマルチプル・インテリジェンス理論の有効性の検証. 令和3年度日本理科教育学会近畿支部大会. 京都教育大学 (オンライン). 2021年11月

#### 12. 公的活動

- 令和3年度日本理科教育学会近畿支部大会 大会事務局